

令和 6 年度県立歴史館資料調査員会議 議事録

司会：新津副館長兼学芸部長

記録：文献史料課 新井

日時：令和 6 年 7 月 19 日（金） 13：30～15：00

会場：県立歴史館会議室

1 開会

2 特別館長あいさつ

この一年間も皆様から様々な情報を得ることができた。今後県史を進めて行く上でも地域における緻密な調査が必要。また歴史館、県と地域をつなぐにも皆様のお力が必要。ご尽力いただきたい。

今回の夏季企画展は初めて公開される資料や、これまで館が買い集めてきた資料などを公開している。今後も秋季企画展の川中島合戦では岩国本、和歌山本の 2 本を公開予定。冬季企画展では佐久間象山を予定している。開館 30 周年を祝う展示となっている。

川村龍洲先生に書いていただいた木曾檜の看板が完成予定。

今後もしっかりと歩みを進めて行くので、引き続きご協力をお願いしたい。

3 出席者自己紹介および話題提供

- ・佐久地域は 8 月 1 日に墓参りを行うが、近年、戌の満水に由来するという説が唱えられ、断定して紹介する発行物も見られる。一方その証拠はないとの論文も出され、きちんと精査していく必要を感じる。
- ・小諸城を色々な面から P R、新たな魅力を掘り起こし、ブラッシュアップをする活動を行っている。地域の古文書については目録ができているが、中身の調査がまだであるため、それらを進めて行きたい。風穴や絹の町、渋沢栄一、御影用水や陣屋跡など様々な団体が調査などの活動をしている。小諸城、御影陣屋についても 3 D 化映像を作成していく予定。資料等があれば情報提供をいただきたい。
- ・上田市では公文書館の活動が定着してきており、写本など地域の貴重な資料が集まってきている。
- ・『伊那市誌』を発行しようと準備中。来年度以降 20 冊ほどを順次発行予定。近現代の史料がなかなかない。
- ・地区を中心に旧小笠原家書院の 400 周年祭をおこない、歴史博物館、市の文化財係など地元の方から周りの様々な団体を巻き込んで盛り上げている。地域づくりの事例の一つとして興味深い。三遠南信についてきちんと考えていかなければいけないと感じている。
- ・木曾地域から歴史館は遠いが、出前講座等のおかげで身近に感じられ、ありがたい。

大桑村の重要文化財である定勝寺が 4 年がかりの耐震工事に入る。土砂災害の被害を受けた薬師堂の曳家工事が行われ 8 月に落成式を予定。歴史館の木曾義仲展へは教育委員会や公民館などを中心に見学などの計画を立てている。

- ・松本では近代初頭や明治に活躍した家の文書の収集が相次ぎ、その時期の史料が(流失の)危機にあると感じている。開智学校耐震工事が 10 月末に終了、11 月 9 日一般公開を再開予定。開智学校については P R など観光政策が中心で、今のところ歴史的な調査結果を発表する機会がないが、やりたいと考えている。
- ・安曇野市では 5 年前に文書館ができ、歴史的文書の収集がすすめられている。メンバーが古文書の収集整理に熱心に取り組んでおり、一軒一軒悉皆調査を行い地域の庄屋文書の目録作りを行っている。歴史資料を大事にしようという運気があってよい。
- ・千曲市では武水別神社関係の古文書が 40 点ほど売られていたが、今年度予算が付き無事購入することができた。良心的な業者でまとまりをくずさず売ってくれた。近代の行政文書である五加村文書を市の指定文化財にしようと動いている。千曲市の歴史文化財センターが旧上山田庁舎へ移転したため住所等の変更をお願いしたい。事業報告書、紀要を刊行予定。
- ・旧須坂の町並みが重伝建に指定される一方でイオン建設や工場が建ち近隣の風景がかわりつつある。今の景色を残しておくことも必要と感じる。
- ・長野市芋井地区の公民館から、預かっている個人の文書の収集を依頼された。調査を進める中で他の家からも申し出があり、文書を家や地域で持てなくなっていると感じた。
- ・飯縄歴史ふれあい館がリニューアルのため休館予定。県境の村であり信濃の国だけでなく越後などにも目を向けていかなければと感じる。やたろうを 100 年フードにとの動きがあるが、あまりにも身近なもので記録がない。記録を残す大切さを感じる。
- ・中野市、地元の有力な旧家に保管されていた史料が売り出されたよう。市としては、お金がかかることは、外部にアピールできるかどうかが重要。古文書関係は売れ残っていそう。何とか流失しないように手を打っているところ。
- ・数年前に栄村誌が完成。村の史料はほぼ把握、村の施設である「こらっせ」で一ヶ所に集めて保管することができた。飯山市は県史の調査を行って以来(調査に)入っていないようで、物がなかったり、一部しかなかったりしている。ふるさと館があるので、できるだけ寄贈していただくようお願いしている。行政文書については後回し。県から行政文書の保管に指導を入れてほしい。

4 議事

(1) 調査員活動について

①報告事項

- ・令和 5 年度の特徴として活動が回復傾向。

②依頼事項

- ・長野県史の所蔵者のリストについて、できる限りの情報の報告をお願いしたい。
- ・企画展・常設展において地域の情報が欲しい時、地域と職員をつないでいただいている。これからも接点になっていただけるとありがたい。
- ・声をかけてもらえれば一緒に史料の状況を確認したりできる。今年度も小諸市で 1 件一緒に調査に伺った。

(質疑応答)

- ・資料 8 頁にあるように各地域の刊行物は各教育委員会等から間違いなく(歴史館へ)送られているか。

←努力義務で、必ず寄贈されているかというところではない。こちらも把握しきれていないので呼びかけ程度になっている。各市町村が各図書館などに送ることになっている。

歴史館が市町村にお願いすることではないので(どのように寄贈を促すか)検討させていただく。

③令和 5 年度調査員報告について

- ・別綴の資料 6 を参照

(2) 各地域の話題

- ・史料の流失の話題が何件かある。所蔵者から公的な機関にご寄贈いただくのが望ましい。歴史館があるということを知ってもらいたい(資料 10 頁やチラシ参照)。
- ・県史料協の活動の一環として流失文書の一覧を作成し、会員へメールマガジンで配信している。
- ・古文書を流失させないよう歴史館がセーフティネットになる。国文学資料館が主催するアーカイブズカレッジのオプションとして 11 月 17 日に一般の人を対象にした講座を実施。
- ・史料の所在調査を行い、実際に災害に遭った時のためのリスト化が必要。県史編さんの際にも利用。名簿は最新のものを提出して欲しい。
- ・代替わりとともに史料を処分する人が増えている。ネットオークションはバラ売りにされてしまう。

【笹本特別館長】8 月 1 日の墓参りの件、モノとしての墓、紙だけでなくモノを見ることも(歴史を明らかにするうえで)大切。薙がまも新しいものが見出されている。視点によって私たちの物の見方が代わってくる。いろいろな見方が大切。(資料について)県史段階であったものの所在の確認をお願いしてきたが、これからは、また違った視点で見て行って欲しい。

5 閉会

【小松館長】各地域の歴史に関わる情報の収集を今後ともお願いしたい。職員の数に限られ(手が回らない部分がある)。皆さんからの情報が大切。歴史館で整理し県民へ伝えていきたい。今後ともご協力を願いたい。